

今回は、「第18回 日本の次世代リーダー塾」の参加報告です。

2年6組 後藤雅尚

私は九州北部で開催されたサマースクール、「第18回日本の次世代リーダー塾」に岐阜県代表として参加しました。そこには139名の若者が集い、これからの日本、世界を担う日本のリーダーを養成すべく経済界や学术界の第一人者が講演をされたり、アジアハイスクールサミットと名づけられた議論をしたりして4日間を過ごしました。

その中で私は多くの仲間と普段の学校生活とは違う経験をしてきました。また今回は新型コロナウイルスの陽性者が出たため、オフラインとオンラインのハイブリット、またはじめての隔離生活を経験しました。



ここでは講師の話聞いた感想や仲間との議論の中や生活で得たこと、そしてコロナウイルスを身近に感じた経験をお話しします。

初めに講師の方から学んだこととお話しします。講師の方の職業は、実業家、学者、医師、宗像大社の宮司と様々で、幅広い経験や見方から、これからの日本や世界の課題をどのように解決していくかということやリーダー像についてお話しされていました。

その中で特に印象に残ったのは、葦津敬之宗像大社宮司のお話です。葦津宮司は、「古代の宗像の外交上の重要性」「現代の環境問題への神社ができる活動」「アニミズムから見た環境保全」についてお話しされました。そこで私が考えたのは、歴史を学ぶことの重要性と、環境問題は人の心の問題であって、解決には科学と心の双方が大切であるのではないかということです。その理由は、今自分たちがどのように生活しているかを考え、たどっていったときに必ず歴史がついてきて、外国のことを知るにも歴史が必ずついてくるからです。また葦津宮司によれば、アニミズムは一神教ともどこかで共通するものを持っているとのことでした。そこから私は、環境保護の問題は、人類の根底に流れる精神にもかかわっていくと考えました。

ほかの講師の方も、異口同音におっしゃっていましたが、やはり科学と歴史の両方が重要であるとのことでした。これからのリーダーは学術のバランス、幅広い教養が大切であると考えます。

仲間との議論は何にも代えがたい経験になりました。関高の探究活動と同じく、ローカルな問題に始まり、グローバルな解決策を見出すのが課題です。私たちは防災について話し合いました。議論の中ではグローバルの定義から話し合うという非常に興味深い話し合いになりました。普段学校ではそのような深い議論をすることはめったになく、刺激的な毎日でした。

た。最終的にはプレゼンテーションまで、オンラインを活用しながらよりよい話し合いを展開することができました。

自分の知識を超える議論を今回できたことは、自分のわからないことや弱点を知ることにつながり、大きな学びになりました。ここで感じた、深いところまで話す楽しさを生かしていきたいと思います。

次にコロナウイルスを通した貴重な経験です。コロナ陽性者が出てハイブリット形式の活動や隔離生活が始まりました。ここで一つ思ったのが、こう言う時こそ、リーダーに不可欠な力が養われるということです。予想外の事態に置かれた時に一人一人が何ができるのか。またいかに前向きに現実をとらえて、自分と周りの人を笑顔にするか。そうした力はこうした時こそ養われるものです。その中で仲間と話した夢や目標また人生設計の話は非常に密度の高いものでした。



この2週間を通して、何にも換えがたい仲間を得ることができました。先にもふれたとおり、2週間、議論をはじめとする濃密な時を過ごすことで、多様な考え方や広い知識を得ることができました。それらはやはり今までいた COMFORTABLE ZONE を超えて新たな環境に飛び込んだ成果だと思えます。今まででは得られなかった多様な夢や考え方を持つ仲間をこれからも大切にしながら、またお互いに切磋琢磨しながら、日本と世界の未来を作る中核として努力していきたいと思えます。

そしてここで見つけた最終的なリーダー像というものは、「いいリーダー＝いいサポーター」であることです。佐賀県山口知事もおっしゃっていましたが、強い言葉で率いるのではなく、まわりをサポートするのが仕事の多くであると考えようになりました。リーダーは多様であっていいと思えます。多様なリーダーの環境こそ世界に一石を投じるのではないかと思います。

今回、様々なハプニングが生じましたが、どんな事態に陥っても何とか開催にこぎつけてくださった事務局の方々、私たちの不安を取り除くために様々なところでご尽力くださった岐阜県の担当者の方、またこのような代えがたい貴重な機会を得るために応援してくださった学校の先生方には、あらためて感謝の意を表します。ありがとうございました。

